

猿新聞

里山再生 緩衝帯づくり

ここ最近までは、生態系が息づく「里山」という地帯が多くなりました。

里山では、樹木もまばらで見通しが良く、動物たちも里山には近づいてきません。人間と野生動物を棲み分ける緩衝帯になっていったのです。

しかし、20世紀始め頃から工業化の進展、農村

の過疎化が進み、里山が人が利用しなくなり荒廃して、この緩衝帯の機能が失われています。

その結果、今まで緩衝帯を果たしていた里山に木々が生い茂り人間の生活ゾーンのすぐ隣に、動物たちの活動エリアが存在することになってしまっています。

人間と動物のテリトリーの境界線が曖昧になってしまっています。



さまざまな方法で、施行されている獣害対策も全国的にこれといった決め手のある対策は未だありません。

環境づくりや動物たちとの共存という視点で対策を考えると、最も優れているのが「里山再生による緩衝帯づくり」だと思います。

かつて野生動物たちと人間を、うまく隔てていた里山を再生することで、人間と野生動物がお互いに目視でき、その距離を保てる緩衝帯をもう一度整備していく試みです。

今、宇陀市室生区竜口では、民家や圃場に迫る人工林、不用木、竹林を伐採し里山再生・緩衝帯整備に取り組んでいます。

因みに、緩衝帯総面

編集・発行
山村 準
tel:0595-63-1725
Email
jyun.y@asint.jp

積は44
写真11ほぼ完成した緩衝帯。
(室生区竜口下川地区)

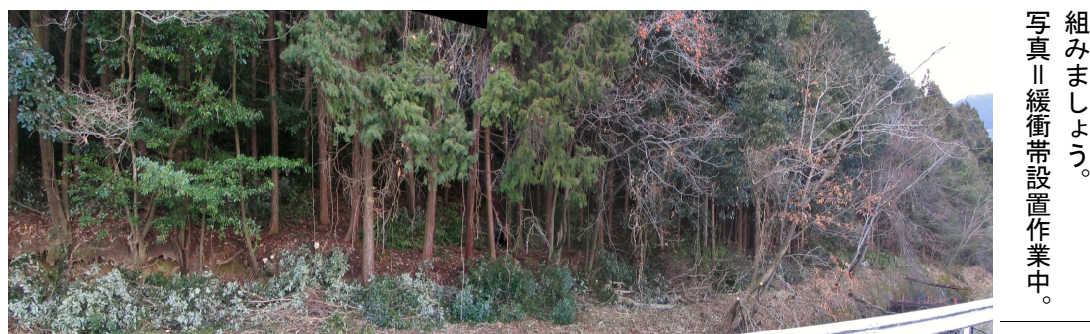
名張市矢川地区

矢川では、野生獣出没が多い春日神社の森の裾野を開いて緩衝帯創りを始めています。

緩衝帯は、野生動物を集落に寄せ付けない効果を発揮します。だが、維持管理が今後大きな課題として残ります。

長期戦覚悟で『獣害に強い集落を創り』に取り組ましよう。

写真11緩衝帯設置作業中。



恒久的防護柵

矢川では、シカ・イノシシ被害対策として、平成20年頃より集落周縁部を二重の鉄製ネット柵で囲っていましたが、経年劣化等が進み管理・補修に苦勞を重ねてきました。今年度行政より原材料の支給があり恒久的な鉄製柵の設置に取り組んでいます。

恒久的な柵と云えば、完全に野生動物が這入れなくするということを目指しますが、農山村集落等においては、道路、川や池・用水路等、物理的に遮蔽することが不可能な所が多くあり完全に野生動物の侵入を防ぐことは不可能です。『野生動物の侵入を完全に防ぐことができる』



恒久的な柵は管理不要と勘違いされがちですが、柵の下に隙間をつくったり、網目を広げての侵入が必ず発生します。

また、柵周辺の草刈りを実施し、侵入箇所を把握できるようにしておく必要もあります。

恒久的柵でも『維持管理を徹底することで、被害を軽減できる』という捉え方をすべきです。

恒久的柵は管理不要と勘違いされがちですが、柵の下に隙間をつくったり、網目を広げての侵入が必ず発生します。

また、柵周辺の草刈りを実施し、侵入箇所を把握できるようにしておく必要もあります。

移動状況

1月

A群は、遊動エリアを餌を求めて各集落を、停滞なく移動しているようです。

B群は、昨年未から何故か宇陀川より南側の地区に定着しています。

指南員報告

1月サルの動向

A群は、1月に入り寒さも一段と厳しく、山中の食べ物が殆ど無い状態で、日当たりの良い神屋、奈垣周辺集落で残り少ない、柿等を狙って数日間とどまる日が多い。

又、一部の集落の方々が野菜のくず（大根、タマネギ、白菜等）を山裾へ廃棄しているのをよく見かけられ、餌づけ状態で、集落にとどまり被害拡大の原因になっていると思われる。

B群は、移動範囲が先月より少なくとも限られた集落（砥取、滝谷、西谷、伊賀竜口、大和龍口）で冬野菜、軒下の吊るしたタマネギ、吊るし柿等狙って出沒している。

★B3発信機装着サル死亡したか？

B3発信機装着の年長いた単独行動していたサルの、先月中旬から大和龍口で約一ヶ月間、同じ場所を受信しており移動した様子が無い。よって山中で死亡していると思われる。

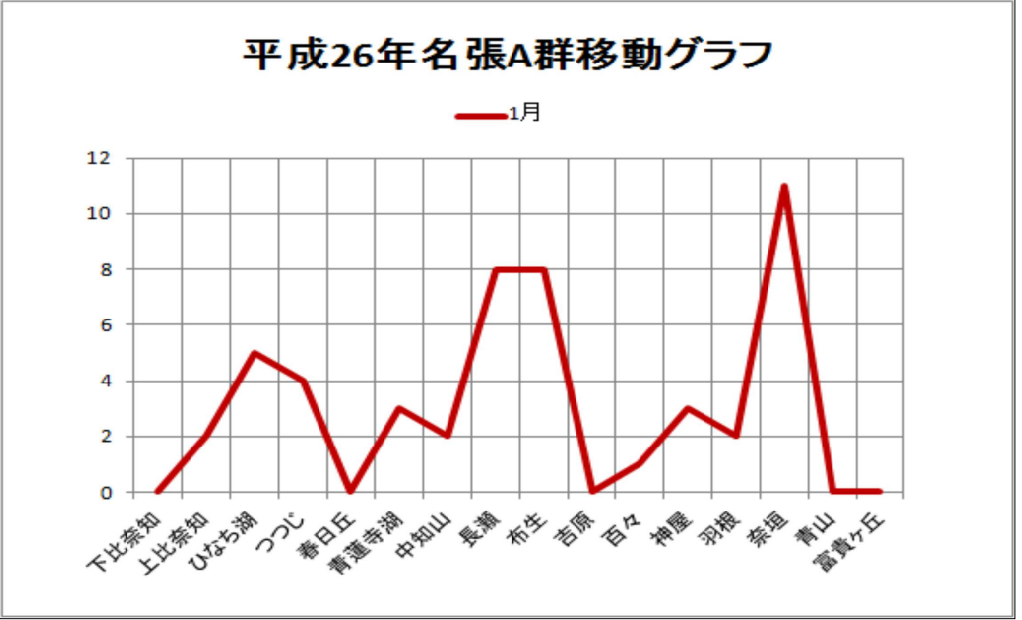
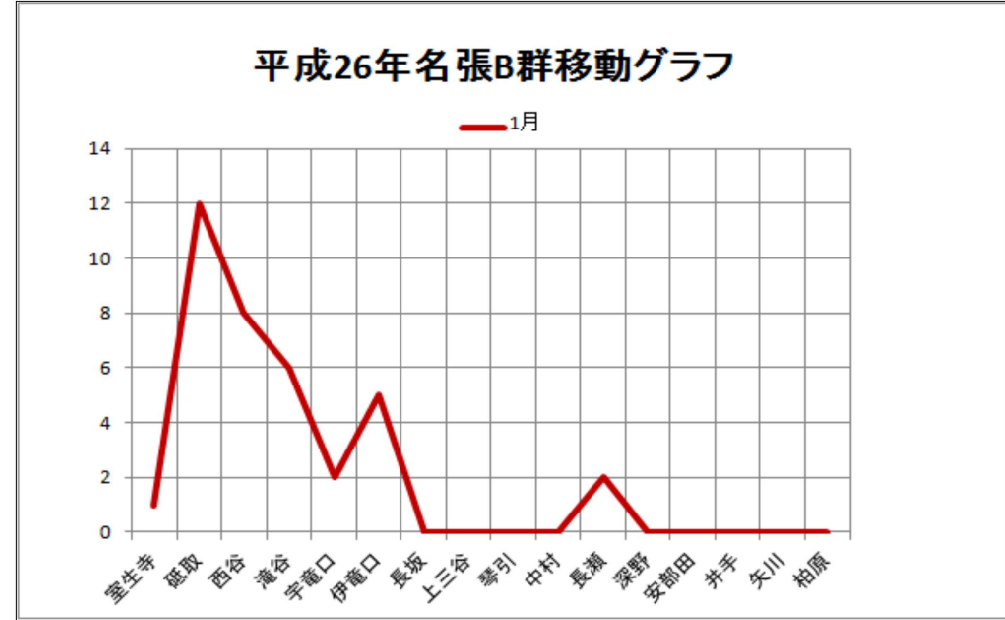
恒久的柵は管理不要と勘違いされがちですが、柵の下に隙間をつくったり、網目を広げての侵入が必ず発生します。

また、柵周辺の草刈りを実施し、侵入箇所を把握できるようにしておく必要もあります。

恒久的柵でも『維持管理を徹底することで、被害を軽減できる』という捉え方をすべきです。

恒久的柵は管理不要と勘違いされがちですが、柵の下に隙間をつくったり、網目を広げての侵入が必ず発生します。

また、柵周辺の草刈りを実施し、侵入箇所を把握できるようにしておく必要もあります。



昨年のサルの動向

1月 A群は、青蓮寺、比奈知ダム中心に生息域を移動。B群は、寒さと積雪の影響で同じ地域に停留。移動距離が少ない。

2月 A群は、青蓮寺、比奈知ダム中心に生息域を移動。B群は、寒さと積雪の影響で同じ地域に停留。移動距離が少ない。

3月 A群は、広範囲に

餌を求めて少頭数で移動している。A群で有名な白猿は死んだ模様。

4月 A群では、伊賀地区のサルがA群エリアに侵入。B群は、移動範囲が広く受信不能の日がある。西谷集落周辺ではハナレサル住居侵入被害。

5月 A群は、移動範囲は青蓮寺湖と、ひなち湖周辺に集中し、ダム周辺の木の新芽を食べている。特にひなち湖周辺の二セアカシアの花に群がっている。そのため農家の農作物の被害の報告が少くない。B群は、殆どの集落に出没し、タマネギの被害の報告が聞かれる。ハナレサルが夏見、赤坂、

柏原、矢川、四季が丘、坂ノ下、井手、三本松、西谷の周辺に、1〜2頭出没して、住民から農作物の被害の報告が聞かれる。

6月 A群は、例年のように青蓮寺湖周辺の桑の実に執着し広範囲に移動していない。農作物の被害の報告も殆ど聞かれない。

B群は、移動の範囲が広く2、3日受信のない日、所在の確認が取れない日がある。

7月 A群は、青蓮寺湖での約1ヶ月間滞在から比奈知湖へ移動し始めたようである。比奈知湖周辺で2〜3日居るかと思えば、青蓮寺湖周辺へ戻り1〜2日滞在という状況。その移動途中の集

落では被害報告が多い。B群は、1日の移動距離が3kmから5kmと長い日があり、電波を受けても所在の特定できない日がある。農作物の被害の報告も少ない。

8月 A群は、日中は集落近くの山中にとどまる日が多い。朝夕の涼しくなった頃、集落に出没して農作物に被害を出して

いる。B群は、先月の中頃室生寺付近で目視して以来、目視できない日が続いている。受信は、B3のみでB1・B2は受信不能状態が続いている。

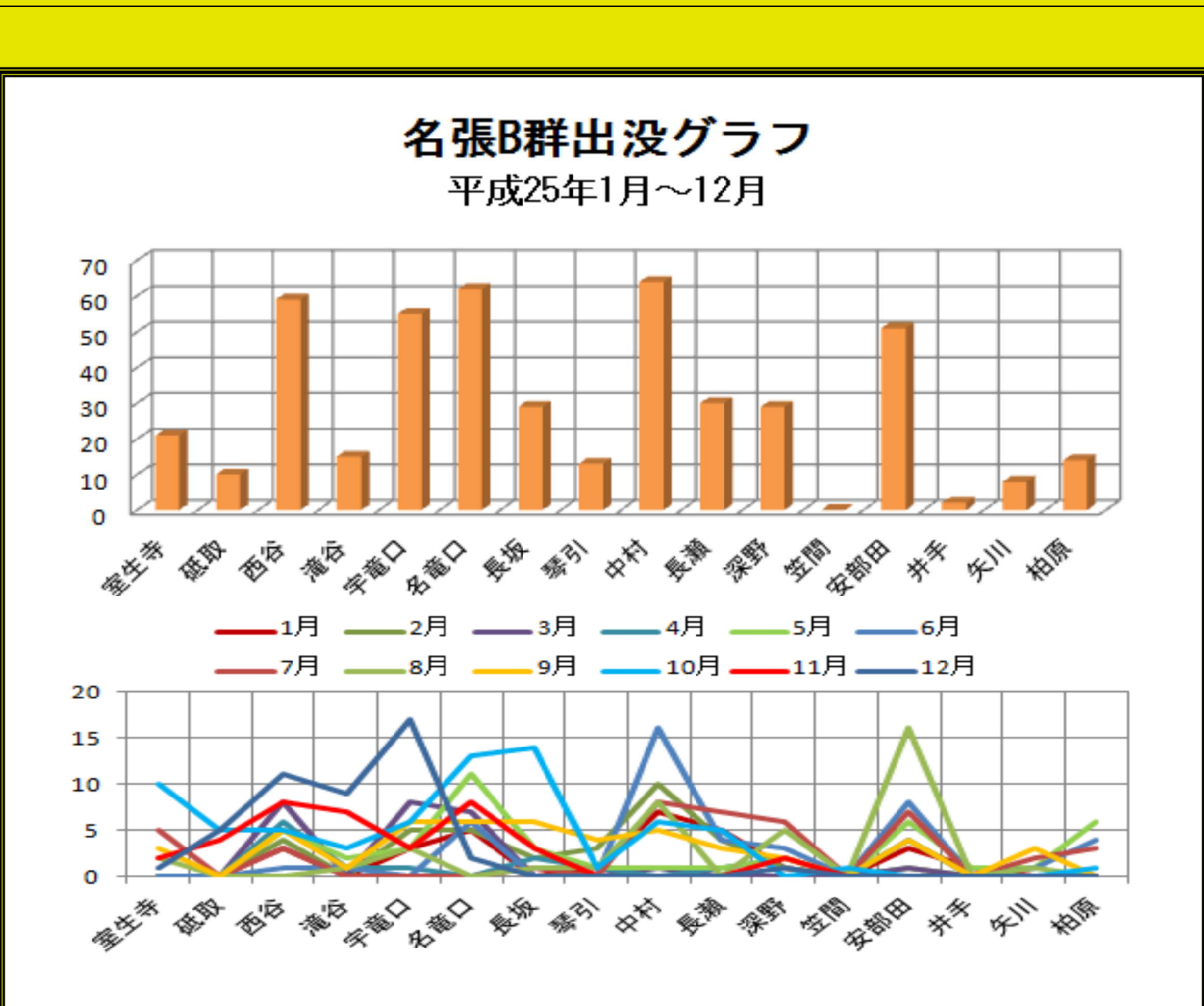
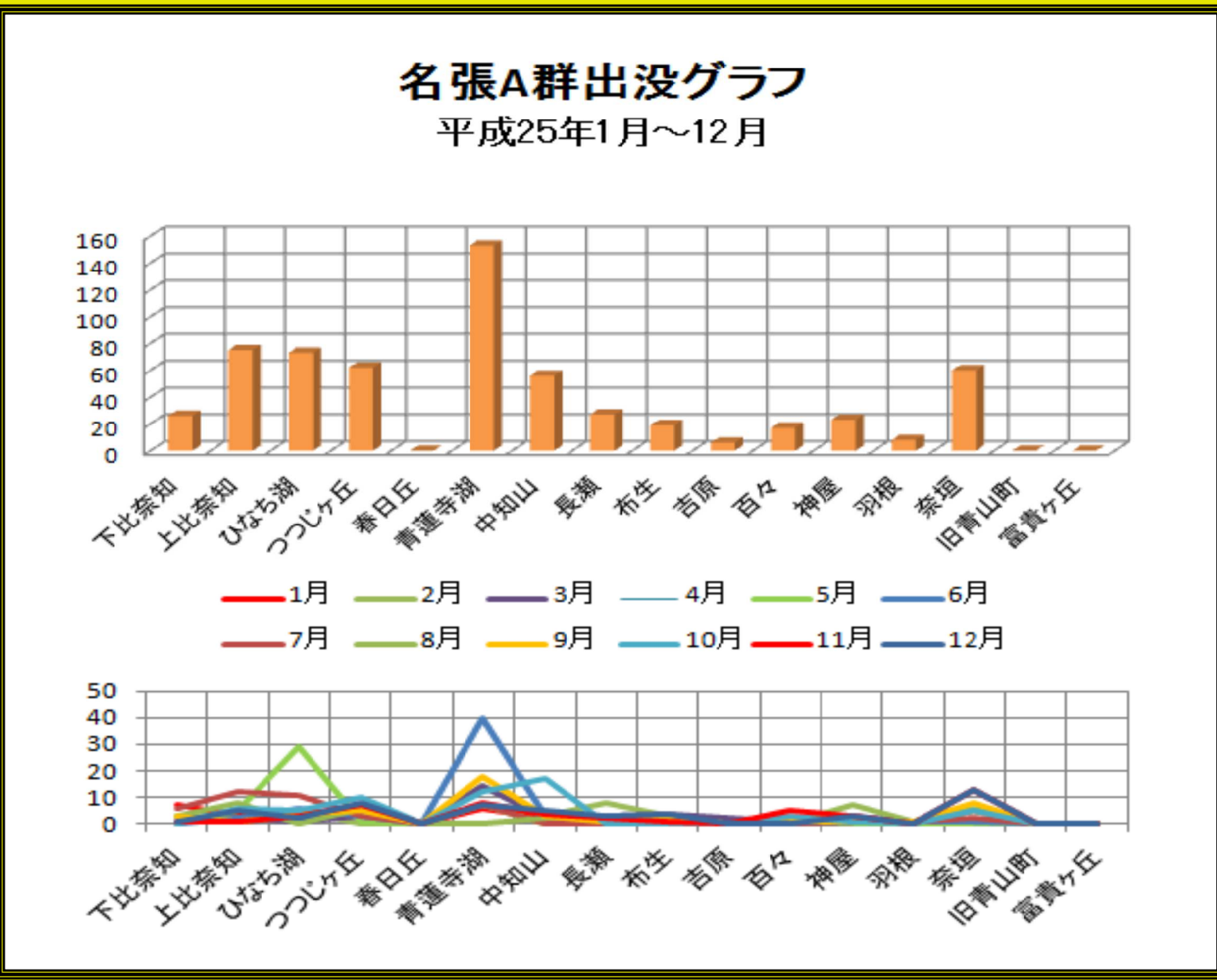
9月 A群は、栗、柿等を狙って青蓮寺湖と比奈知湖を往来する日が多

くなっている。B群は、先月ごろから不明のB1、B2の発信機のサルの群れが菟田野方面へ分裂？移動したもようであり、B3の発信機のサルの群れについても受信するもの、群れを目視できない日が続いている。農作物の被害の報告も殆ど聞かれない。ハナレサルの出没が以前より多く聞

かれるようになった。9月26日菟田野方面へ分裂した群れが西谷周辺で受信、目視した。

10月 A群は、比奈知湖、青蓮寺湖周辺の山栗、柿、あけび等を狙って頻りに往来している。

B群は、先月末に菟田野方面に移動していたB1、2を西谷周辺で受信、目視して以来、約2週間ほどはB3群とは、お互い警戒しあって距離を置いて移動していたが、今月中頃からB1、2、3の発信機の群れを、同じ場所を受信、目視する日々が多くなっている。



11月 A群は、食べ物少なくなり、移動範囲も狭く、柿の豊富な集落に集中。

B群は、B1、2の群れが国道165号線より南の地区に遊動域が限られ、数日同じ集落へとどまる日が多い。又、個体数調査の結果、B3は受信のみで、目視が出来ない日が続いていたが、年若い動きが鈍く、1頭のみ単独行動しているのを目撃している。

時々、B1、B2の群れにB3の電波を受信。偶然に遭遇したのか？共に移動することが確認されている。

12月 A群は、移動範囲が少なく柿の豊富な集落、地域に出没。

B群は、B1B2集団の遊動域は国道165号線より南側地域に限られ移動距離は短く数日同じ集落にとどまることが多い。B3は年若い動きが鈍く、1頭で単独行動しているのを目撃。